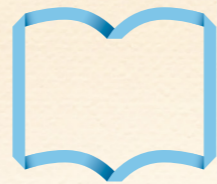


図書だより



菊池市立図書館ホームページ <http://www.library-kikuchi.jp>

中央図書館 ☎0968(25)1111 [休館日]月曜日
 泗水図書館 ☎0968(25)1115 [休館日]月曜日・月末・祝日
 七城図書館 ☎0968(25)1580 [休館日]日曜日・祝日
 旭志図書館 ☎0968(25)3332 [休館日]日曜日・祝日



菊池市立図書館
Kikuchi City Library

年末年始の休館日

平成29年12月28日(木)～1月4日(月)は全館休館
 ※休館中の返却は返却ポストをご利用ください。

イベント情報

年越し in 中央図書館

大晦日・元旦を図書館で迎えてみませんか。除夜の鐘つき、初詣の途中にぜひお立ち寄りください。来館された人にはプチお年玉をプレゼント。新年を館内でゆっくりお過ごしください。

とき 平成29年12月31日(日) 午後10時～
 1月1日(月) 午前10時(臨時開館)

ところ 中央図書館 ※貸出・返却はできません。

展示情報

読書感想画コンクール作品展示会

中央図書館オープンを記念して、市内の小中学生を対象に読書感想画コンクールを実施しました。応募総数198点の中から入賞26点が選ばれ、12月23日に表彰式を行いました。小中学生の力強い作品をぜひ見に来てください。

期間 ～1月19日(休)まで

ところ 生涯学習センター KiCROSS内

※KiCROSSでの展示終了後、泗水・七城・旭志図書館でも巡回展を行います。

小学1年生の部 金賞

小学2年生の部 金賞



永田心都さん(限府小1年)
「うみのそこたんけん」



村中孝成さん(泗水小2年)
「わんぱくだんのきょうりゅうたんけん」

絵

本の世界

読み聞かせにおすすめ!



夢金

立川談春/文 寺門孝之/絵
 ばばけんいち/編 (あかね書房)
 しんしんと雪のふる夜、船宿にお客がきた。しかしそのお客たちは訳ありの様子。お金に目がない船頭はお金を選ぶかそれとも…。人間の欲深さを面白く語る落語絵本。(所蔵館:旭志)

今月のおすすめ図書

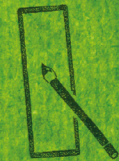
中央図書館
 新しい分かり方 佐藤雅彦/著
 骨格診断とパーソナルカラー診断でわたしの魅力を
 引き出す似合う服のルール 二神弓子/監修、森本のリ子/著
 ダナエ 藤原伊織/著
 5分後に思わず涙。 桃戸ハル/編著、田中寛崇/絵
 たくさんのたかさんのたかさんのひつじ のはなはるか/作・絵
 ブルーローズは眠らない 市川憂人/著
 Dear Zoo Rod Campbell/作

泗水図書館
 切腹考 伊藤比呂美/著
 しみ 坂口恭平/著
 日本の古寺101選 廣澤隆之/監修
 賢い子は1歳までの眠りで決まる ポリー・ムーア/著
 アーサー王と黄金のドラゴン メアリー・ポープ・オズボーン/著
 そーとそーととひらいてみよう ニコラ・オバーン/絵

七城図書館
 日本一赤ちゃんが産まれる病院 龜山早苗/著
 忍物語 西尾維新/著
 恨み残さじ 佐伯泰英/著
 絶叫学級 人気者の正体編 桑野和明/著
 ざんねんないきもの事典 続 今泉忠明/監修
 このママにきーめた! のぶみ/さく

旭志図書館
 嘘をつくる器 死の躍変天目 一色さゆり/著
 お呪い日和 その解説と実際 加門七海/著
 ますます健康川柳 近藤勝重/著
 世界の神々大図鑑 グラフィオ/編
 おしりたんでい いせきからのSOS トロル/さく・え
 にこにこばあ 新井洋行/作

文芸きくち



万句の里俳句会 11月例会

お帰りの無事を祈りて神の留守
 始業ベル桜紅葉の向こうより
 皆勤の朝の挨拶鵜来る
 音たてて風に転がる落葉かな
 それぞれに朝日入魂露の玉

北村 妙子
 松永 久子
 中路 郁子
 川口 二子
 光本とよいち

七城短歌会 11月詠草

張りし網にX状に足構う蜘蛛の心に惹きつけらるる
 見て回る菊花展場先も後も観賞客の驚嘆の声
 懐かしき人の我が名を呼びて来し菊の祭りの賑わいの中
 みのり穂を散歩のすがらさやりみる農婦の頃の苦楽湧きいづ
 軒を越え皇帝ダリヤが咲き満ちる霜の遅きを念じて止まぬ

嶋田 晴美
 緒方 寛子
 緒方 正俊
 高木 精
 池田カツ子

せせらぎ俳句会 11月例会

晴天の続きゆつくり深む秋
 秋日和カーテン残さず洗ひ終へ
 コスモスや流る夕日の菊池川
 盗み見る猫を尻目に秋刀魚喰ふ
 掛け置きし農良着に潜み冬の蜂

寺本 和子
 藤本アツ子
 服部 静子
 森 正子
 藤本 邦治

「里」短歌会 11月詠草

微笑みの慈しみ満つお出ましは秋晴れの皇后「春秋の間」
 誘はれバス友の中揺られつつ幸せ一日秋の終わりを
 雲海の中の集落望みつつ安穩願い過ぎる大観峰
 枯れ草の中に一輪秋桜のけなげに咲きて秋深まりぬ
 もみじ葉と紛ふ小さき手を上げてにっこり笑ふ曾孫愛しも

宮本 淑子
 山城 雅子
 梶原美智代
 松本 和子
 安見 朱實

旭志文芸教室俳句の会 11月詠草

花芒連休に帰し墓起す
 大根の土より出でし白さかな
 新葉の匂う畜舎や牛の食む
 虫の音を聴きつ鶴折る夕べかな
 名月や琴の音響く杉木立

芹川 蓉子
 中尾ヨシコ
 芹川のり子
 水谷 ミネ
 稗田 達恵

さわやか大学文芸クラブ 11月歌会

天高く錦秋の今日結婚式輝く孫ら倅せであれ
 孫の手の温もりしかと握りつつサーカス小屋の暗き中ゆく
 ジャンケンの指出す仕草異なりて大正・昭和違ふ指出す
 開田に息が丹精の太秋柿今日初出荷肌なでさする
 秋雨の置きてゆきたる水溜まり下校の児童ら長靴楽しむ

中川 愛子
 山田 弘子
 北村 玉恵
 山下 菊代
 川口 敦子

肥後狂句水笑会 11月例会

うすぬくさ 礼服は俺一人バイ
 往復はがき クラス会から来るばかり
 言いたい放題 媽に口ではかなわぬ
 次から次 道産子市でなろどらす
 往復はがき 参加はたった二三人

井手 水光
 御手洗三代
 柏原 乗仏
 宮上 美由
 山隈 好茶

菊池短歌会 12月詠草

いささかの愁いはあれど衣食足る温みに眠らな今宵満月
 雨どひをすべる時雨の聴こえつつ浅夜ひとりの山家のふかさ
 老いふたり暮す軒下つるし柿渋を光らせうれてゆくかな
 つかの間の夕映えに輝る柿の実にあまたの神も集ひてをらむ
 われに遭ひあわてふためき黒蛇は花鉢の裏へ身を隠したり

中川 愛子
 怒留湯健蓉
 安藤 則子
 岩永 典子
 古賀 勝士